

## 令和5年度第1回大府市ひきこもり支援地域協議会議事録（要約）

日時 令和5年6月26日（月）午後3時30分から午後5時まで

会場 大府市役所 全員協議会室

出席者 （協議会委員）※敬称略

会長 山田武司、副会長 來多泰明、外波祐二、神谷恵美子、吉田浩子、近藤美智雄、  
杉原直樹、井戸千尋、時安利栄、山田武司、野口桂子

欠席者 竹内美喜、池田久絵

（事務局）※所属順

福祉部長 猪飼、福祉総合相談室長 小清水、福祉総合相談室主査 山下、福祉総合相談室主  
事 伊藤、地域福祉課長 長坂、子ども未来課長 川出、健康増進課長 原田、学校教育課  
指導主事 伊賀、学校教育課スクールソーシャルワーカー 丹羽

（傍聴者）1名

<司会：事務局>

### 1 市長挨拶

### 2 委嘱状交付

事務局)

時間の都合上、机上配置にて交付する。

### 3 自己紹介

各委員、事務局とも自己紹介

### 4 会長、副会長の選出

会長：山田委員 副会長：來多委員

### 5 議題

<進行：会長>

（1）大府市ひきこもり支援事業について

ア 令和4年度ひきこもり支援事業実績報告（資料No.1-1～3）

（事務局から資料に沿って説明）

イ 令和5年度ひきこもり支援事業計画（資料No.1-4～6）

（事務局から資料に沿って説明）

- ・令和5年度ひきこもり支援研修会のチラシの中に「時待ちびと」について記載している。今年度からひきこもりの別称として新たに「時待ちびと」という呼称を使用する。使用を予定している主な機会は、

大府市ひきこもり支援地域協議会などの公開の会議、講演会や「ふぁみり～Café」などの市が主催する交流会、専門相談や常設相談などの市が実施する相談事業の場を想定している。

#### 【意見、質疑応答】

委員)

- ・ 6月上旬に受けた専門相談の次の予約が年末年始になっている。緊急性がない方は、次回予約時期を工夫することや、終結とすることなどにより新規相談の受皿を用意している。
- ・ 専門相談だけでなく、常設相談でも多くの相談を受けていることを考えると、市内にはさらに多くの困りを抱えている方がいると思う。
- ・ ステップアップの一つとして、エスコートに繋ぐことを大きな目標にしているが、人それぞれである。ちた地域若者サポートステーションに繋いだ事例もある。正解のようなことを示さないように、注意しなければいけない。
- ・ 居場所については、大幅に増えている実感がある。令和4年度については、高校中退し行き場がない子が、ほぼ毎日来ている。数として激増になっている。
- ・ 専門相談に関しては、新規の人を受け入れる余裕がない。専門相談員との関係はできるが、一步踏み出せず、長くなっている。大府市の専門相談と常設相談が上手く連携できればと期待している。
- ・ ふぁみり～Caféの講師をした。家族皆で参加している家庭があった。勉強会や講演会を機に、家族がひきこもりについて理解できるなど、当事者を身近で支援する方のサポートができると良い。
- ・ 専門相談の継続が増加しているため、専門相談を継続しながら、ふぁみり～Caféを利用するなど、徐々にふぁみり～Caféが中心になると良い。居場所を作る活動については、利用者が増加しており、ニーズがある活動だと思う。
- ・ この協議会の委員同士、事務局も含めて互いの機関のことを知り、協議会を軸に様々な繋がりができれば、様々な課題に対応していけると思う。
- ・ ちた地域若者サポートステーションに繋いだと事例があがった。ハローワークも含めてその方に応じて繋いでいければ良い。就労という形が無理な場合は、様々な社会参加で、繋いでいく形ができれば良い。
- ・ ちた地域若者サポートステーションに繋がっているすべての方が、自己選択や、自己理解ができないわけではなく、知的に問題のない方もいる。ハローワークに行けるような方は、まずはハローワークに行く形をとっている。
- ・ 今のケースだと、最初からハローワークという形も十分あると思う。逆に、ハローワークに行くと難しい方は、ちた地域若者サポートステーションを経て、また、ハローワークという形も考えられる。
- ・ 5月17日付けの中日新聞の知多版に掲載された記事について、この場をかりてお礼を申し上げたい。15年ひきこもっていた方が、大府市商工会議所のお力添えにより、キッチンカーを借り、自分で作った料理を提供することができた。彼は自信を失っていたが、社会復帰のスタートラインに立つことができた。
- ・ 専門相談と常設相談のスタッフで、2か月に1回事例検討会を実施している。今年の支援研修会の講師、榎本氏をスーパーバイザーとしている。相談の長期化の問題も含め、常設相談はひきこもりに限らず、相談が寄せられるため、対応に困ったケースを相談するなど、相談員としての機能を磨きなが

ら情報共有している。

(2) 壮年期における時待ちびと（ひきこもり）について（資料No.2）

（事務局から資料に沿って説明）

【意見、質疑応答】

委員）

- ・2点思ったことがある。1点目は、時待ちびとの定義の部分、内閣府の調査をもとに定義とあるが、『ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン』を参考にした方が良い。2点目は、13ページの支援行程図が、個別の事情よることが協議会内では共有できていても、この資料が外に出るときに周知できるかが難しい。就労の実現ということもあるが、社会参加が多くなれば、それに伴う支援が必要になる。働くだけが全てではない支援の在り方も示す方が良い。
- ・ちた地域若者サポートステーションでは、訓練をしてから、職場体験に参加する流れをとっている。企業側に説明するが、現場の職員まで浸透していない場合があるため、注意が必要である。
- ・定義として、6か月以上という形で良い。運用上は、6か月经過していなくても、時待ちびと等の状態になれば、支援の対象とする方が良いと思う。
- ・終了だけが自立ではないという形で、自立や社会参加という概念をもう少し整理できたら良い。ボランティア等も含め様々な形での社会参加があることが必要である。職場体験の目的は、当初は当事者をケアする視点で、職場体験ができると良いと思う。
- ・本市の支援施策の部分に、常設相談は入れなくて良いのか。常設相談が幅広い相談窓口そして、図の中に幅広く横に繋がって入った方が良いと思う。

事務局）

- ・これから対外的に出すときには、職員も対応しているという支援策の一つとして周知する。

委員）

- ・市の施策に、全世代型サロンというのが記載されているが、具体的には、幼稚園の子から御高齢の方まで、幅広い年齢の方々がサロンで、実際に活動しているということか。その中に、ひきこもりや不登校の方も入っていくというイメージか。

事務局）

- ・全世代型サロンは、年齢を超えた交流ができる場として、どなたでもお越しいただき、交流を図れる場としていきたいと思っている。時待ちびとの方々にも利用してもらいたい。
- ・既に全世代型サロンを市内に4か所開設している。これから先、目標としては、10か所、自治区に1か所ずつは広げていきたい。

委員）

- ・不登校の方は同年代の方とは会いにくく、年が離れた方のほうが話しやすい、関わりやすいということがある。うまく活用できれば良いと思う。
- ・居場所づくりを行っている。自分のひきこもり経験を活かしていける、若いスタッフを育てていかなければいけないと思う。
- ・支援行程図は、表に出すものなのか。

事務局)

- ・支援行程図は、あくまで案であるが、今のところ特に対外的に出すことは予定していない。第1回の協議会であるので、市として、支援策を階段状に表記してあるが、認識を共有のもとするために準備したと理解いただきたい。違う案があればご意見いただきたい。

委員)

- ・支援行程図どおりには進まず、途中で止まる方、居場所のスタッフとして活躍はできても、就労というところまではいかないという方がいると思う。
- ・年齢で区切ることができないし、その人によって状況は大きく異なる。今関われる状況の中で、どこをその人の現時点でのゴールとして考えていくのかが必要だと思う。社会参加、自立という点を、考えていけるのかということも一つのポイントだと思う。
- ・地区の家族会のような家族を癒せる場所が必要だと思う。家族を応援する形、地域の力が必要だと思う。地域の視点で見えて支える必要がある。
- ・民生児童委員という立場で、不登校などの相談を受けることがある。スムーズに連携をとるのは難しい。主任児童委員として情報共有をしたいが、学校の方針もあると思うが壁があると感じる。
- ・地域の中で、どう、不登校の方、ひきこもり、家族も含めて支えていくのかっていう点は、非常に大切な点だと思う。

## **6 事務連絡**

事務局)

- ・大府市子ども・若者支援ガイドの内容確認を依頼。近日中に送付予定。
- ・第2回大府市ひきこもり支援地域協議会は、令和5年10月13日(金)午後3時30分 から、大府市役所 全員協議会室で開催予定。